



## 最期を考える

住み慣れたまちで安心して看取りを迎える  
市民フォーラム in 日野町

住み慣れたまちで安心して看取りを迎える市民フォーラム in 日野町が、1月19日(土) 町民会館わたむきホール虹で開催されました。

フォーラムは第一部としてウォーリス記念病院(近江八幡市)を舞台にした映画「いのちがいはん輝く日」あるホスピス病棟の40日」を上映した後、第二部としてパネルディスカッション「在宅での看取り、施設での看取り、地域で支えるためには」が行われました。その中では、「在宅の看取りを望む人は多いが実際は難しいと思う人も多い」という現状をふまえ、最期を「どのように」迎えるかが大切であると話されました。本人や家族が望む方法で、命の尊厳を大切にしたい最期を考える機会となりました。



▲在宅・施設での看取りの現状をお話しされたパネルディスカッション

## 韓国の言葉、文化をやさしく学ぶ

韓国語講座を開催

基本的な文字とあいさつ、文化を学ぶ初心者向け「韓国語講座」が日野町国際親善協会主催で、1月23日(水)から2月27日(水)までの間、5回にわたり開催されました。

講師は、龍谷大学などでコリア語の指導をされている小林純子先生。

町内外から、申し込みが殺到し、定員枠を30名から40名まで広げ講座が進められました。小林先生は個々の反応をみながら、言語と発音を丁寧に解説され、受講生は声を出して繰り返し、言葉の一つ一つを熱心に学んでおられました。

わきあいあいとした雰囲気の中で韓国語の発音や抑揚、さらに話し手と話す相手の関係で表現の変わる韓国語の特徴や、会話表現などについて学びを深めておられました。



▲笑顔で受講生に指導される小林先生

## 通学合宿でつながる地域と子ども

日野町通学合宿情報交換会

1月26日(土)、西桜谷公民館で日野町通学合宿情報交換会が行われました。

通学合宿とは、子どもたちが地域の公民館などで一定期間泊りし、食事の準備や洗たくなどを自分たちで行いながら学校に通う取り組みです。今年度は西大路、東桜谷、西桜谷地区で行われました。

交換の場では「子どもが地域や人のつながりを実感し、大切さを学ぶことができた」や「地域の大人が一生懸命になって子どもに向き合い、子どもが自信をもつ機会となった」と通学合宿で感じたことを話し合われました。特にどの地域も実施されたらしい湯は、子どもにも地域の方にも好評だったようで、ほほえましい出来事を楽しそうに話されていました。



▲通学合宿で工夫したこと、大変だったことなどを話し合う情報交換の場となりました





# まぢの

## 「子育てはひとりでしたらあかんよ」

### 子育て講演会「笑って学ぶ子育てのコツ」

1月29日(火)、日野公民館ホールで子育て講演会「笑って学ぶ子育てのコツ」がキッズいわきばふ代表の岩城敏之(いわきとしゆき)さんを講師に迎え、行われました。

岩城さんはたくさんのおもちやを持参され、年齢に合わせた遊びの大切さや年齢別の遊びの意味と遊び方をお話しされました。

岩城さんは「子育ては母性ではなく文化。だからひとりではがんばっても上手くいかない。先輩をよく見て、聞いて、まねる。周りの力を借りて育てることが大事なんや。そして自分がひと段落したら、次は力を貸してあげて」と親しみやすい言葉で話されました。

参加された方は、子育てで困っていることや電子ゲームについてなどたくさん質問をされていました。



▲子育て中の方がたくさん参加された講演会(写真中央が岩城さん)

## 折り紙を農村生活体験にいかすために

### 体験インストラクター・スキルアップ研修

2月3日(日)、日野町林業センターで体験インストラクター・スキルアップ研修(折り紙の基礎を学ぶ)が行われました。

この研修は三方よし!近江日野田舎体験推進協議会が日本の伝統文化である「折り紙」を今後の農村生活体験にいかしていただくことを目的として開催されました。

今回は約30名の方が、鶴つるの形をした箸置きや、トンボの「やじろべえ」等の作り方を学ばれました。

参加者の方は「今まで子どもたちと一緒に新聞紙でかばんを作っていました。今度は折り紙もやってみます。きっと子どもたちは喜んでくれると思います」「思ったより簡単なので今度子どもたちが来たら一緒に挑戦してみたいです」等と話されていました。



▲出来上がった作品を見せあう受講者

## 日野椀ひのわんに込めた思いが実る

### 日野椀が「ココクール マザーレイク・セレクション」に認定

このたび、町の工芸品である「日野椀」が認定され、2月6日(水)に県庁で授与式が行われました。初めてとなる今回は、142件の中から、10件の商品・サービスが選定されました。

日野椀の作り手である北川高次きたがわ たかじさんは「私ひとりの力ではなく、一緒に作ってくれる職人、きっかけを与えてくださった方等、皆さんのおかげ」と話され、日野椀復興のきっかけをつくられた中田なかたさんは「北川さんが使い手に喜んでもらいたいとの一心で作り続けておられる誠実さも評価されたひとつ。積み重ねた努力が実ったことは嬉しい」と話されました。

日野椀は、給食用食器として使われるなど幅広い年代の方に利用されています。



▲左から嶋村さん(日野椀の作り手)、北川さん、中田さん(ココクール マザーレイク・セレクション授与式にて)